

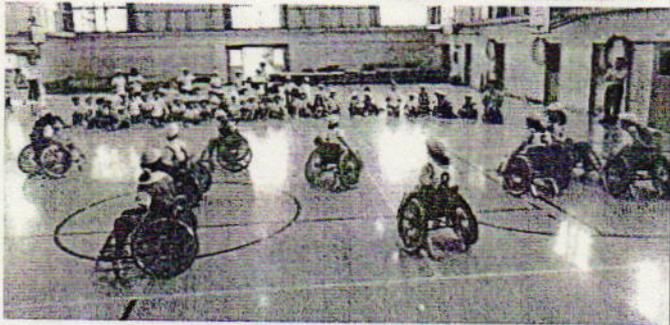
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	京都市立 竹田小学校 第6学年 62名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 特別活動, 総合的な学習の時間 ）
4 目標 (ねらい)	パラリンピックで行われる種目である車いすバスケットボールの選手と交流することを通して、障害のある人が行うスポーツやオリンピック・パラリンピックについての興味や関心を高め、障害のある人たちの思いや願いを知り、自分にできることを考え、生活に生かそうとする。
5 取組内容	<p>(1) 本校の学習単元における位置付け</p> <p>本校では、6年生の総合的な学習の時間に、「生き方について学ぼう」を行っている。また、人権学習（キズナ学習）の7月の課題は、「障がいのある人にかかわる学習」を行っている。この両方の学習に絡めて、1時間目は車いす体験と車いすバスケットボール体験を行い、2時間目は、総合的な学習の時間に位置付け、選手による講演を聴いて、生き方について学ぶ学習として行った。</p> <p>(2) 授業の様子</p> <p>①「車いすバスケットボールの選手と交流しよう」</p> <p>選手の自己紹介のあと、体育館で、一人一人が競技用車いすに乗って、リレーをした。途中でコーンの周りを一周するところが子どもたちにとっては難しいようであったが、全員が競技用車いすを自分で操作することができた。その後、各クラスの代表が車いすバスケットボールの試合を行った。選手がそれぞれそれぞれの対戦チームに入って、パス回しをリードして下さり、思っていた以上にうまくゲーム運びが進んだ。試合に参加しない児童は、観戦にまわったが、攻守の切り替わりが早いゲーム展開に大興奮しながら応援していた。白熱した会場には、シュートを放つ毎に大きな歓声が上がった。</p>

活動内容	
5月	○【総合】「夢に向かって努力している人から話を聞こう」 ・パワーリフティング元ジュニアチャンピオン 西田万留々さんのお話
6月	○【キズナ学習（学活）】障がいのある人にかかわる学習 ・国枝信吾さんの心の強さについて考えよう！
7月	◎【総合】「車いすバスケットボールの選手と交流しよう」 ・1. 競技用車いす体験をしよう（学活） ・2. 車いすバスケットボール選手の話を聞こう（総合）
10月	○【総合】さらに、いろいろな仕事をしている人に話を聞こう ・中国人留学生と交流しよう
11月	・学校医さんからの話を聞こう
12月	・プロダンサーの仕事を知ろう
1月	・民族学校の先生からお話を聞こう
2月	・AED体験をして救急救命士の仕事を知ろう 等
2月	○【総合】将来の仕事について具体的に考え、自分の夢を語ろう。



②「車いすバスケットボール選手の話を知ろう」

車いすバスケットボールチーム京都アップスの代表の山本さんが、自らの経験を元に子どもたちに夢を語って下さった。若くして交通事故に遭遇したことや、車イス生活が始まって苦労したこと、車イスバスケットボールと出会ったこと、今の仕事のこと、子どもたちに伝えたいことなど、心に響く語り掛けをして下さった。子どもたちは、真剣に話を聞き、自分たちにできることを考えることができた。



6 主な成果

今回の学習は、子どもたちの心に残る体験となった。競技用車いすに乗る体験、車いすバスケットボールに触れる体験、選手の生の声を聞くことが、子どもたちにとって、自分たちの生き方を主体的に考えるきっかけになった。感想文にもあるように、どんなことがあってもくじけずに、努力を積み重ねていくという生き方や、自分たちにできることを考えて行動すること、そして、スポーツがなくなると人の輪のすばらしさを子どもたちは、心底実感することができた。

美える事や大変な事だと、わかりました。もうおかげで、これは「早め」がわかる。これは「うしろ」もある。そして「かわり」がある。これは「車いす」バスケットボールの体験をしました。成長して、早くから「車いす」バスケットボールの体験をした。みんな、楽しんでいて、楽しそうに思っています。今日は、車いすに乗る人と話しました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。

車いすバスケットボールの体験は、とても楽しかったです。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。

今日は、今日授業としておこなったことの中で、一番楽しかったと思った。元々、サッカーをしていたので、車いすバスケットボールの体験は、とても楽しかった。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。車いすに乗る人が、とても楽しそうに話していました。

7実践において工夫した点(事業の特色)

- 子どもたちが、実際に車いすを操作したり、車いすバスケットボールを体験したりできるように、競技用車いすを10台借用し、体育館に準備した。
- 事前に打ち合わせを行い、子どもたちの具体的な活動内容を、実態に合わせて設定した。また、本校が取り組む総合的な学習の時間とのつながりで、講師の実体験を踏まえた話を子どもたちに講演をしてもらえるように依頼し、内容を調整してもらった。
- 選手の車の駐車スペースを広めに確保したり、体育館の入り口に斜めの簀の子を用意したりするなどして、車いすでの移動経路を確保するようにした。

8主な課題等

今回の学習は、子どもたちにとって大変意義深いものとなった。オリパラ事業として予算を頂けたことによって、選手への謝礼や、競技者用車いすを10台運搬する予算を賄うことができた。できれば、次年度以降も継続して行っていくことを願っている。多くの子どもたちがこのような貴重な体験学習の機会を、今後も継続して行って頂きたいと強く願っている。

9来年度以降の実施予定

本校の取り組む人権学習(キズナ学習)においては、一過性の取組ではなく学年ごとの積み上げが大切であると考えている。来年度は、本校体育館改修工事のため、体育館の使用ができないことが非常に残念である。しかし、その次の年以降には、人権学習としても価値の高い学習効果がみられた今回のような体験学習を、今後も、再開・継続できることを強く望んでいる。